

13
1928
50

但馬
湯嶋



つれづれに辨心丸を

女のおもさ世なりをば衣紋も冠もい
ふと何れも引渡り人ももつとどとくや
うま人のんてくれさ好むも皆此の
なすいづきんてくれさこのまさる人
何れどまじり弦さかちるあハ人さし
指のつちれかけいませんてくれこの志

辨心丸

ものあり。さうもとして長款ひよひさ
形とも何らば。六候きんがの生かこ
まりハ。二候慈暮あてや免。八候とごら
の信やとづむハ。四候とごらとらわおく
すまたやとも。志車中居が海合て。こ
くここてんハ。殿達のまーや。達者小
あうて可愛らしいなうら。こらいるゆまで
か。おとひあー。身がらり音たさう

しん。こんどの彩あさうひこのと。そや
しそけいひりまでも下小かうと。何の
ししもぬい法師ふまで。うんの字付
ての鳴。まう。けりがむとのいやふ下略と
むさうひこ。ぐらも。これ。奇曲家のこんて
らきさずり。又。義をまぬ。さうるあ
も。ちりとりけれ去地。系るゆれらぬ
おふあきての一口二口ハ。一與もぬるべ

けとと。おあはれもあも憚り。付代
その、三日月の切。あ方此摺く手と
てい。ちくとかさらうハ。さりうはまの
どくぬりの。さうとひながる。淨福利。三
強ハえ茶屋の乃をぬれバ。故て笑ふ
るうさふもゆらげ。なんを我癒えがしセ
たいとて。茶屋の庄妻での轂を轂人
物ぬい顔付で。テレチンホウくやせうハ

あまりぬる所合やう。熱して万葉を
かつけらも。ゆとハんてくれのいやしを
程とて。すうー画公ゆるあはは。は
所持の扇ごよご。まさすま。白
とんせささぐるさやくハ。臺所の火用
口の釣燈ごまさうる。拳此うてくれ
相まぬのんてくま。生兵法ハ喧嘩
見てくま。おま支カハ角カと見て

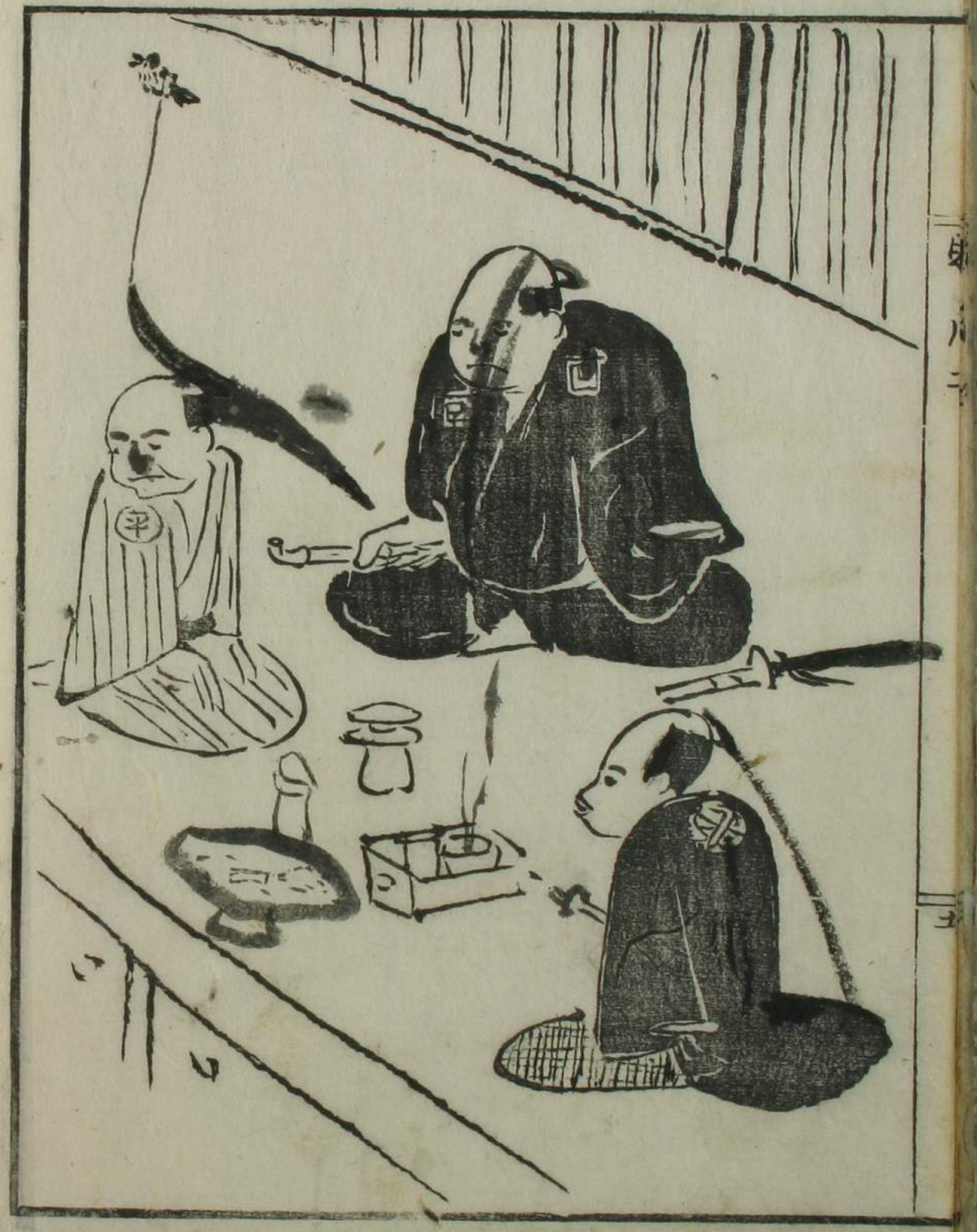
くまといは。香らしくあはれんてくれハ。細工の七ツ乃具とたり。一。袋の凡入と。散らば
んてくれハ。けし。袋の凡入と。散らば
押弓結んてくれハ。山といふ家と。名ふ
はけ。中ら此うてくれハ。朝日結日。和と
結ぶ。一。医公何のこやくハ。疾。病の。養生
さ。おし。う。く。是。成。ん。て。くれ。う。く。人。相
ず。き。ぬ。あ。ハ。心。此。節。と。う。て。や。め。て。是

と。ん。て。くれ。と。ん。仕。家。れ。ん。て。くれ。は
庄。友。小。立。遊。鞠。の。う。て。くれ。ハ。庭。ふ。り
藤。僧。新。地。何。り。或。細。細。と。水。を。馬
系。祇。園。所。と。か。ける。漢。学。者。の。ん。て。く
こ。ハ。掛。相。の。漢。字。と。よ。み。和。学。者。結。う。て
くれハ。懸。書。れ。か。ぬ。ぼ。う。ひ。と。表。に。寄。よ
こ。ハ。撥。帛。紗。と。よ。う。う。て。ん。て。くれ。と。し
相。寄。作。ハ。云。弦。索。の。う。う。に。と。洛。書。て

是^{これ}は^はな^なて^てく^く色^{いろ}と^とは^は相^あ言^い師^しの^の事^{こと}也^{なり}
と^と思^{おも}へ^へる^るも^も能^よく^く作^{つく}る^るの^の柄^{がら}也^{なり}と^と思^{おも}へ^へる^るも^も
い^いづ^いれ^れの^の色^{いろ}も^もと^と思^{おも}へ^へる^るも^も其^{その}外^{ほか}に^にも^もな^なし^し
ぬ^ぬる^る人^{ひと}ハ^ハ異^い性^{せい}の^の肉^{にく}陳^{ちん}切^きり^りと^と思^{おも}へ^へる^るも^も
厚^あく^くして^て是^この^の色^{いろ}も^もい^いづ^いれ^れの^の色^{いろ}の^の一^{いつ}と^と思^{おも}へ^へる^るも^も
色^{いろ}を^を見^みる^る異^い性^{せい}の^の中^{ちゆう}に^にも^もあ^あら^らず^ずと^と思^{おも}へ^へる^るも^も
矣^いぬ^ぬり^り。系^{けい}屋^やの^の亭^{てい}に^にも^もあ^あら^らず^ずと^と思^{おも}へ^へる^るも^も
白^{しろ}の^の女^{にょ}房^{ぼう}が^が生^い花^か好^{こう}屋^や乃^の隠^{いん}居^きが^が

例^{れい}年^{ねん}初^{しゆ}尚^{じやう}也^{なり}。説^{せつ}法^{ぽう}の^の小^{せう}生^{せい}り^りまで^{まで}い^い
づ^いれ^れの^の色^{いろ}も^もと^と思^{おも}へ^へる^るも^も其^{その}外^{ほか}に^にも^もな^なし^し
ぬ^ぬる^る人^{ひと}ハ^ハ異^い性^{せい}の^の肉^{にく}陳^{ちん}切^きり^りと^と思^{おも}へ^へる^るも^も
厚^あく^くして^て是^この^の色^{いろ}も^もい^いづ^いれ^れの^の色^{いろ}の^の一^{いつ}と^と思^{おも}へ^へる^るも^も
色^{いろ}を^を見^みる^る異^い性^{せい}の^の中^{ちゆう}に^にも^もあ^あら^らず^ずと^と思^{おも}へ^へる^るも^も
矣^いぬ^ぬり^り。系^{けい}屋^やの^の亭^{てい}に^にも^もあ^あら^らず^ずと^と思^{おも}へ^へる^るも^も
白^{しろ}の^の女^{にょ}房^{ぼう}が^が生^い花^か好^{こう}屋^や乃^の隠^{いん}居^きが^が

解^{かい}の^の二^に



ハ切きりの方かたてりけきぞいけぬぞと
 さのこむも男おとこりぬ瞬しん合あえむむ妓かハ
 一い得とくううぞぞいいかかすすののいいりり何なにららい
 じやじいいふふ交まもも名な深こふふおおろろととくくりり
 たたのの踏ふここののここせせりりぬぬいいぢぢ北きた里さと志しりりががふ
 湯ゆ一いてもも東とう辺へんのの借か屋やハハ石い借かとと古こ人じん
 ののいいすす先ま々々ももううりりいいんんととかかくく河か東とう
 小こにに居ゐるるややみみ却かえ當あととままららううてて

ささののいいしし里さと小こ敷しをを繩ひもも知し恩ん地ぢ所しよ
 のの小こ男おとこ初は見み世よももいいはは一いくく名な深このの茶ち屋や
 知し者しよのの妓か小こ掛かたたふふさされれままここ思しひひ付つとと
 手て付つ茶ち屋やもも言いのの志しををここ細こええもも當あ合あ
 ハハおおきき一い語ごりりれれどどだだんんくくとと火かががままりり
 たたののここ小こおおりりももあありりととりりよよハハ回ま友ともにに踏ふ進しん
 中ちゆうちちつつととのの男おとこ小こ女めももたたくくみみもも一いぢぢおおかかりり
 ううつつここ女めをを信しんもも日か和わ射しやう等たうのの女め支し喧けん喧けん

清ひ小ハ何所目とやうに
儂儂と云
そのおり。その根ね羅カ
くして配雨の
月見さいでハあるすい

筆ととりてハ初カ人
ととがひ青樓
街と通りてはもてん
中とがもふとや
徹小細原の余笑い
余雨ふまじび
あさひ。石垣は
たつ亭の大流
燈籠

二階とくに輝一川端の水榭
は教
の若畑とて
とて小翠か
初馬舞舞り踊り
はあるなりた
くあり。遊る何と
引くあり。あり
ときいてとてハ
新妓あせ
持と祿
ちて口之弦と
何らふ。お車ハ
園は
おとあつさ。中
居ハ砂と
まろく
のま
不ひんれおとち
やうらうのち
とて
追漢は

こみふりける。幸々解ゆ。白く汗の
おほひ。御者此より。いつを在り
さるハおし。ま。同所。細細
ハ細長い。路とさぐり。行能。一。小
新。の赤名がき。此。造りも。紋。此
奥。官ハ。店。あり。たつ。と。う。二。階。ハ。中
造。の。ヤ。く。そ。く。是。所。は。春。の。そ。う。さ
身。と。う。此。燕。子。が。延。鏡。と。出。く。奥。と

あ。と。は。脊。戸。は。は。新。造。の。色。妓。う。紙
燭。して。所。と。た。づ。子。の。門。口。小。二。人。乃
稀。あり。志。車。が。接。扱。も。そ。こ。く。ひ。て。ま。ら
二。階。の。お。り。へ。這。と。ま。し。中。連。子。の
あ。り。里。の。り。か。う。這。あ。が。き。と。床。り。し
て。灯。籠。二。張。湊。川。の。仕。込。者。二。三。種。小。女
房。が。砂。の。柵。子。ゆ。け。窓。ご。う。小。囃。お。じ
と。お。え。の。ん。あ。る。も。奥。の。色。ど。お。く。と。あ

おまねぢりといひと老々せし。よとりかろ
とのをせば。糞蓋ふやしと茄子此針小
とがられらり。おげいこの泣又ハどれも
くお忍半。たれまのの控言をふ
咄である。湯の子飼ひ。ははまで鼻た
せと。お務持水貫ひふあこお成。いふ
改日すれどとて。余りぬるはさ付の
と。おめとも今昔此まき。まがちくさ
ら

あま夢で。P河あこ此を何〜いふと
か〜んやしくやとひ人の中居が。ちと女中
さんもむんし。ささむるご志やふして。よんで
見るち坂中り此中諾。意味ゆるそくに候
ぐ〜こととて。おもい〜ばお居つ〜白
身。おやまら〜いものハ白粉とかんご〜半
あつひ。能我鬼結り〜の化ぬおもひ
〜〜。面白讀も〜とあり〜。想女怪

紅圍ベニイロのたのしみも。あまを愛いとふ人ひとの
窮きつ屈くつ三さん。向むかひ三さん斬ざんあ清きよの心こころをひふと
しえもまうせかこりせ。はかばかして
の物もの成なりり。あつたぬ死し金かねとは。かぶ
折おとやひつらん。早ひつ竟まがをよ金かねハらぬ死し
の。つよ金かねと生な金かねハみいざと。あつた
ハ唯ただの悟ご備びは合あ生なの境さかいハ何なにもあ
持もびふも奴ぬ日ひのけぬり。あまを。悟ごまはらん

志こころやく持もび。相ああへへのまけぬまま持もひ。妓おや
の。そそもあまを。いぬく。の。あまを。あ
そびや。い。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
ハ。ちと。瞬またたか。つて。や。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。
あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。

かりらわぬ場も何るべし。まさもある人
此是^ますでたんとはうか。死金の利息で
今生^{いま}金をはうか。招くおこといふも理
ぞう。彼人^{あいつ}夫^{おつ}舌^{しん}で舌^{しん}々^{しん}律^{りつ}樂^{がく}喜^{あそ}の
里^り更^{さら}ふてらびらふたぐひ。らかけく
まはら〜まはら〜

總^まて瞬^まといふものハ茶屋をひとするが瞬^ま

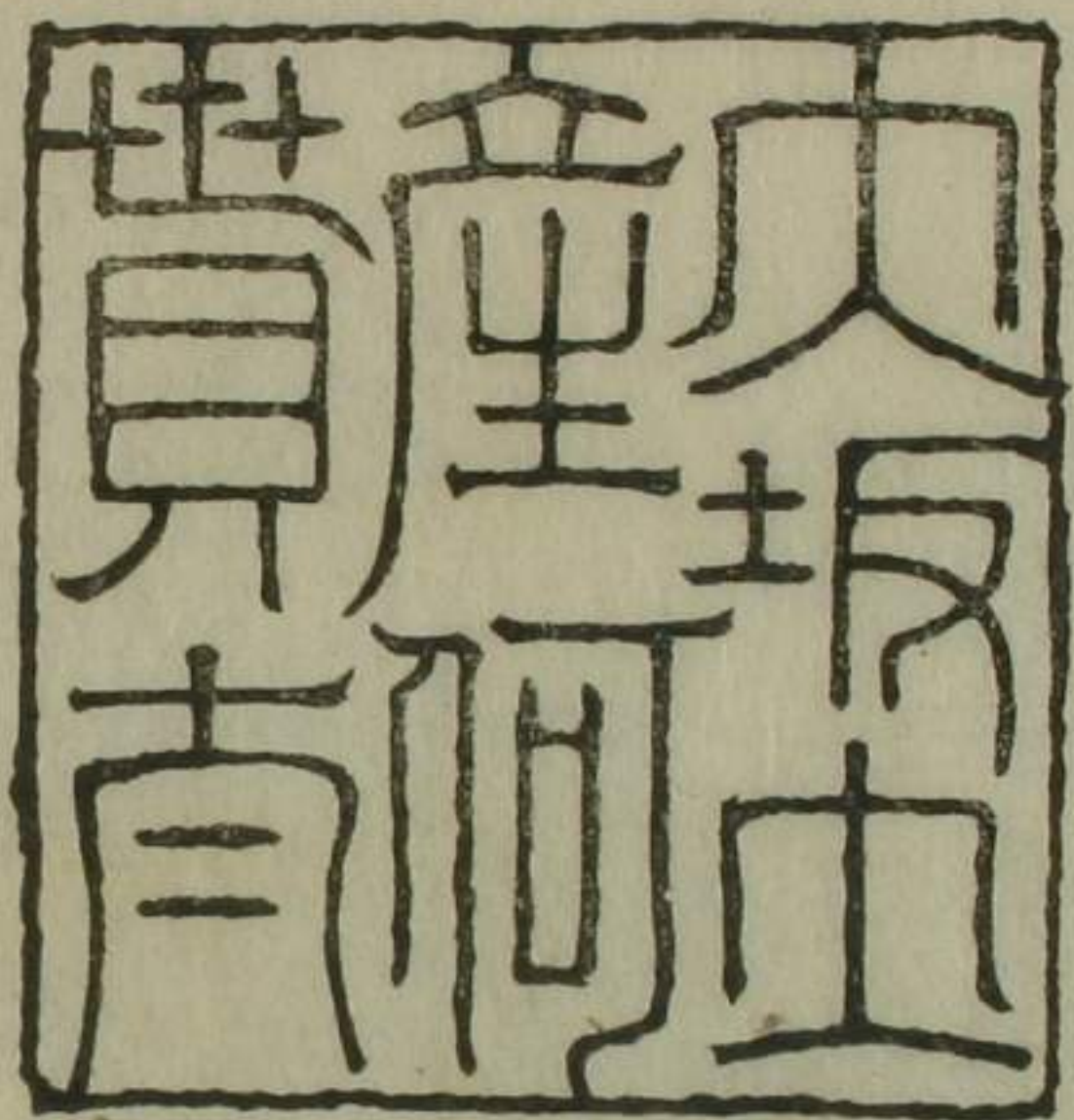
おもはらぬ。まが茶屋といふおがむとや
いふげ人情とある物也。茶屋おひ瞬の名
有^あ才^{さい}一瞬^{いつしん}といふ西ハん持和^しして何^な事^{こと}
おも私^{わたし}おく。人のと先^まむうりとおもひ。男^{おとこ}
女^{おんな}小^こくさうば親^{おや}父^{ちち}も。丁^{ちやう}推^{おし}おも。さうさうと
いふが瞬^まやんか女^{おんな}師^しおさうさうても。かん
しんの親^{おや}父^{ちち}おすうさう親^{おや}父^{ちち}も瞬^までけぬい
んがやうさう親^{おや}父^{ちち}をうりでも。及^{およ}不^ふそむけてハ。親^{おや}

又^ぢがまとうぬ思^{おも}存^{ぞん}ハ勿^な海^{かい}世^せ法^{ぽう}の乃^のとすも
 不^ふが瞬^{しん}の奥^{おく}きこの瞬^{しん}とすもあぶ時^{とき}はる法^{ぽう}
 此^{この}月^{つき}ホころりて仏^{ぶつ}法^{ぽう}のきごと傳^{つた}道^{どう}有^{あり}非^ひ
 秘^ひあきこむ矣^い申^{まを}も何^{なに}里^り柳^{やなぎ}ハえんどう様^{さま}ハ
 とまうりのなきぬく。のらハ餅^{もち}屋^や匠^{じやう}老^{らう}ハい
 しや。これゆきさくくの赤^{あか}葉^はとすのり情^{なさけ}の乃^のも
 うとかがば茶^{ちや}屋^やづるひもまいかざんふ瞬^{しん}ぬり
 急^{いそ}遠^{とほ}て身^み志^しのそくと福^{ふく}ちつて奥^{おく}づり
 突^つ



井山矢人可水

浪華下耳鳥の寫



找れ川を必お海にれど。毒ふ必とら
 えつどうもつと^{すあ}且^あま^あふあまの川。
 地獄な流うづ川。それいそみ^うを^あし。
 世の附合いう找の川。掬^あみ^あの^あ川。
 肉のうすい^あの^あ川。それ^あを^あ水^あ邊^あに
 似く水邊^あに^あは^あふ^あす^あ。化^あ浪^あよ^あら
 川^あを^あめ^あれ^あ。瞬^あの^あ川^あを^あい^あふ^あ。め^あの^あ川^あを^あい^あら^あだ。

どふとこちかある當もなげれど。まじく
決志れぬあふもあはれ毒の人也。
ふふ志めしあふあそめん。され奉
配く人々の命もいふ海もあくとまらる
人そ共の暁とかがるべし。ほもあふあ
思わくゆけは。あそふとかがすなりひ。
川がららハハといや。たまぬればあそす

海々との。あそふも久しうあそぶ
たまらざれどその趣と志りか
さるか。艶好法師かの徒然よ
たうらひ。今秘のふと油か。かさ
さざしけ川の志とこく。あそびあづく。
あふまると名のしむか。かきか
婦のうまあそか。あそひひ。

たまらなくたふれぬ野驛のぐらあひ
一邨の肝。これぞこゝの性根なり
と。非我いふ。

あのおさうり地ふらの妻

ひげゆき
系ゆき
あまのこ
まはら
ゆるし
中

天明三年卯正月



大坂心齋橋筋久宝寺町

塩屋七兵衛

京麩屋町通楠葉下ル所

右柳屋助左衛門

京都書林

日三系通油少治為入所

小橋 宗左衛門

但列
中屋甚生